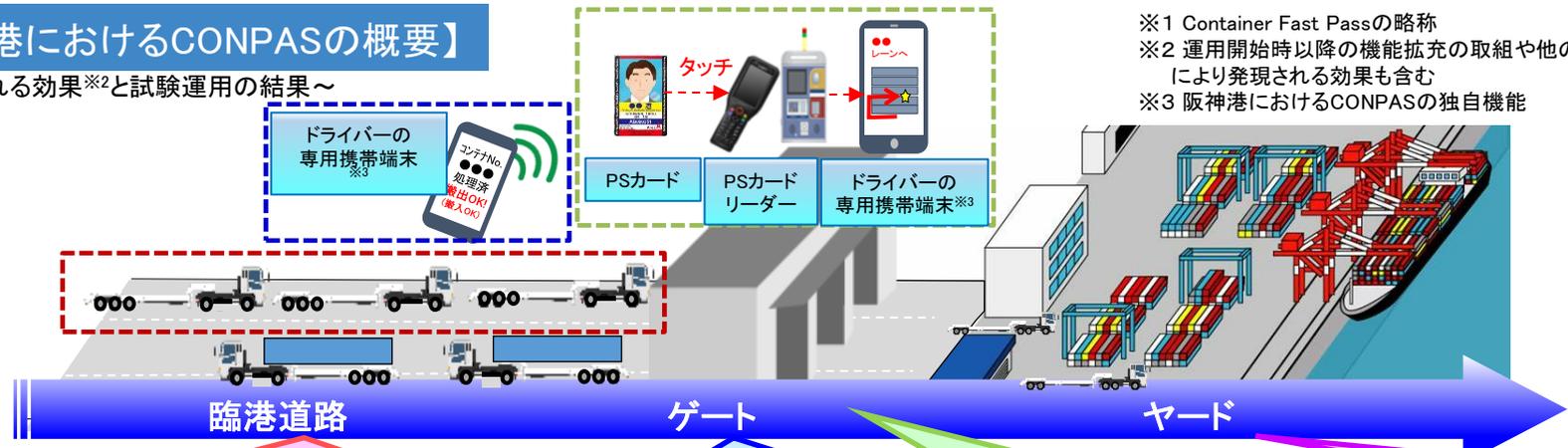


CONPASの概要

- CONPAS※1は、コンテナターミナルのゲート前混雑の解消やコンテナトレーラーのターミナル滞在時間の短縮を図り、コンテナ輸送の効率化及び生産性の向上を図ることを目的として国土交通省が開発したシステム。
- 阪神港では、利便性の向上を目指し、阪神港の独自機能としてCONPAS専用携帯端末等を導入。
- 阪神港においては、大阪港夢洲コンテナターミナルで令和6年3月29日、神戸港PC-18は令和6年9月27日に常時運用を開始。また、令和8年3月27日からは神戸港KICTにおいて常時運用を開始。導入ターミナルを順次拡大中。

【阪神港におけるCONPASの概要】

～期待される効果※2と試験運用の結果～



- ※1 Container Fast Passの略称
- ※2 運用開始時以降の機能拡充の取組や他のシステムとの連携により発現される効果も含む
- ※3 阪神港におけるCONPASの独自機能

①搬出入予約
 予約制度の導入により、トレーラー到着時間を平準化

②搬出入情報の事前確認
 事前の搬出情報の確認、搬入情報の照合により、ゲートでのトラブルを回避

③PSカード・携帯端末の活用
 PSカードタッチ処理・携帯端末による行先表示※3により、ゲート処理時間を短縮

④予約情報・車両接近情報の活用
 CONPASを通じた車両情報等の活用により、ヤード処理を効率化

【試験運用結果】
 ・**予約制度・CONPAS専用レーン**の設定等により、ほぼ**全てのCONPAS車**が**予約時間どおりにコンテナターミナルゲート到着**
 ・大阪港DICT(実入搬出)の**ゲート前待機時間**について、CONPAS車は通常車と比較して、平均**約30分減**を確認
※大阪港DICT第5回試験運用・神戸港PC18第4回試験運用(R5.7~8)

【試験運用結果】
 ・**ゲート処理時間**(実入搬出)が、平均**約1分減**
※大阪港DICT第2回試験運用(R4.8~9)
 ※神戸港PC18第2回試験運用(R3.8~9)
 ・CONPAS車では搬入票エラー等によるゲート待機無し
※大阪港DICT第5回試験運用・神戸港PC18第4回試験運用(R5.7~8)

【試験運用結果】
 ・ターミナルオペレーションシステムへ、CONPAS予約情報等のデータ送信機能を構築

【更なる将来展開】
 ・CONPAS利用の拡大を図りつつ、トレーラー到着時間の平準化を目指す

【更なる将来展開】
 ・より効率的なゲート処理に向けて、CONPASの機能拡充を図る

【更なる将来展開】
 ・ターミナル事業者等と連携し、CONPAS予約情報の活用によるヤード処理の効率化を目指す